

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、24～27℃台を示し、平年並み～やや高い水温でした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網——西彼地区では、マサバなどが1日1統当たり5トンの水揚げで、前週の42%（前年並み）。五島奈留地区では、マアジなどが1日1統当たり2トンの水揚げで、前週並み（前年を下回った）。
- イカ釣——ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり12kgの水揚げで、前週の26%（前年を下回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり506kgの水揚げで、前週の73%（前年を下回った）。五島奈留地区では、1日1統当たり12kgの水揚げで、前週の48%（前年を下回った）。
- 定置網——五島魚目地区では、シイラなどが1日1統当たり274kgの水揚げ。北松生月地区では、シイラなどが1日1統当たり2トンの水揚げ。対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり88kgの水揚げ。対馬東岸地区では、ヒラマサなどが1日1統当たり270kgの水揚げ。
- 一本釣——北松宇久地区では、ヒラマサが1日当たり292kgの水揚げで、前週並み（前年を上回った）。
- トビウオ船曳網——北松生月地区では、小トビ主体で1日1統当たり438kgの水揚げで、前週の76%（前年を上回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（10/5日～10/9日の5日間）沖合イカ釣り船、船凍船は日本海（大和堆付近）へ出漁した。

沿岸イカ釣り（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～隠岐海峡～鳥取沖～兵庫沖～能登半島沖にかけて出漁した。

鳥取県西部：4日延37隻、総計1,562箱、1航海最高105箱、平均42.2箱、スルメイカを中心に漁獲、魚体は20～30入主体。今期は山口沖～隠岐海峡～鳥取沖～兵庫沖～能登半島沖にかけて漁場を形成した。山口沖でケンサキイカ及び隠岐海峡～鳥取沖でスルメイカが若干減少した。
（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」から漁海況週報や漁海況通信をご覧ください。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>